

歴史ある市庁舎の改修事例

庁舎改修事例①

名古屋市本庁舎（重要文化財）

人口（H27国勢調査）	2, 295, 638人
建設年	1933年
構造	鉄骨鉄筋コンクリート
規模	地上5階、地下1階、塔屋
延床面積	24, 404m ²
整備手法	免震改修

- ・平成22年に、既存基礎と地下1階床下の間に免震装置を設置する**基礎免震による耐震改修**を実施。
- ・平成24年～26年に老朽化対策のため、外壁改修を実施。
- ・平成26年12月に**国の重要文化財**（建造物）に指定された。
- ・映画の撮影場所としても使用される。

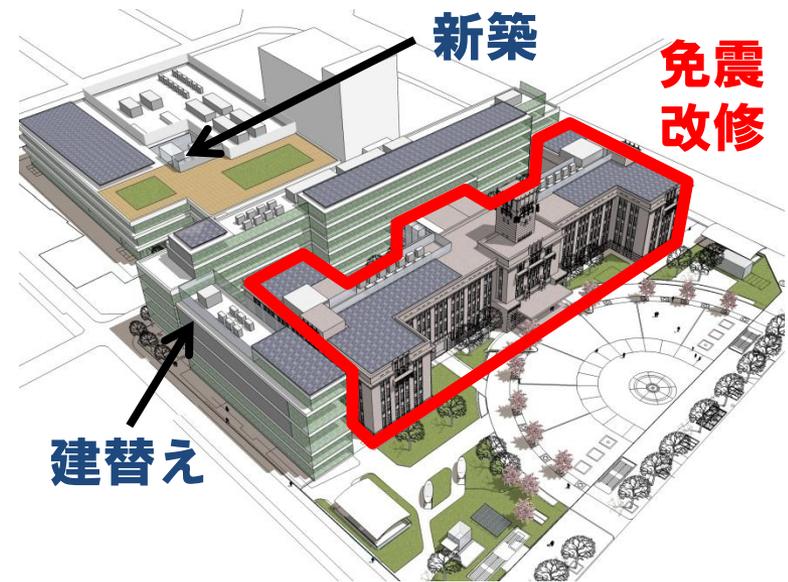


庁舎改修事例②

京都市本庁舎

人口 (H27国勢調査)	1,475,183人
建設年	1927年
構造	鉄筋コンクリート
規模	地上4階、地下1階、塔屋
延床面積	16,678m ²
整備手法	免震改修 + 新庁舎整備

- ・有識者を交えた**庁舎整備懇談会**の**提言**
「可能な限り保存が望ましい」受け保存。
- ・Is値0.9相当が確保でき、居ながら工事が可能なため、**免震工法**が適切と判断。
- ・その他、**耐震壁の増設**や**補強躯体**を新設。
- ・耐震性の他、防火区画・内装の不燃化等の**防火性能**においても現行法令を満足しないため、歴史的意匠に配慮しながら**適法化**。



庁舎改修事例③

鹿児島市庁舎本庁舎

人口 (H27国勢調査)	599,814人
建設年	1937年
構造	鉄筋コンクリート
規模	地上4階、地下1階、塔屋
延床面積	9,306m ² (本庁舎)
整備手法	耐震改修+新築 (本庁舎及び一部の別館は継続利用)

- ・既存庁舎の活用を基本と考え、耐震性能が確保された本庁舎は継続利用。
- ・別館A(約1万m²)は、炭素繊維巻き補強、柱や耐震壁の増加により耐震改修。
- ・西別館(約1万m²)を新築。
- ・新耐震基準の東別館(約1万m²)は継続利用
- ・約1万m²規模の庁舎4つを連絡通路で接続している。

